もっと世界とつながる グッとくる マガジン

GM

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

[グローバルマインド]

65
Aug. 2020
学校法人 大阪国際学園
広報誌

特集

今この時代に大切なことを考えてみる。

MESSAGE
これからの教育を各校のトップが語る

REPORT
パラダイムシフト後の社会を生きる

VOICE
コロナを通じてあらためて感じたこと

活躍する、卒業生たち マジシャン 嵯都志（Satoshi）さん

学園HEAD LINE／研究室探訪

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。

GM65
GL🌐BAL MIND

グローバル情報局

大阪国際学園から耳よりニュースを
お届けします。

2021年、新たな学科でSTART

大阪国際大学短期大学部

2021年、大阪国際大学短期大学部に2つの新学科が誕生します。「栄養学科」は食と栄養のスペシャリストである栄養士になるための学科。健康や長寿、そして食の安全性がクローズアップされる時代に活躍できる人材を育てます。「ライフデザイン学科」は「観光・英語コース」と「キャリアデザインコース」に分かれ、豊富な資格とスキルを身につけ、自分探しをしながら夢を実現する学科です。

食と栄養の専門家「栄養士」になる!

多彩なプログラムと実践的な学習を通じて、食と栄養にかかわる知識と技術を学びます。卒業後は病院、高齢者施設、保育所など多彩なフィールドで即戦力として活躍できます。

豊富な資格とスキルでなりたい自分になる!

観光・英語コース	憧れの観光業界で活躍するプロになる!
キャリアデザインコース	目指すキャリアを発見&実現する!

2022年、松下町校地に

新しい中学・高校が開校されます!

永年、地域に愛されてきた大阪国際滝井高校と大阪国際大和田中学・高校を2022年に統合します。両校の魅力が相乗的に発揮されるよう、新しい時代を創造する人材を育てる発展的な中等教育を展開します。

●キャンパスのコンセプトは

「Feel on！ふれて感じて考える、すべてが学びの場」

生徒の探究心を高め、多様な考え方や価値観を養う学校環境を実現します! 新校舎建設は今年8月着工予定です。

学びの特色は、中高一貫教育を行うとともに、「国際学園」にふさわしい教育を展開するため、英語イマージョン教育や国際バカロレアプログラムの認定をはじめとする国際性育成プログラムを充実させます。滝井高校で実施されている小笠原流礼法からの学びを活用するなど、日本人としてのアイデンティティを育てる教育を行います。

新中高校舎イメージ図

吹き抜け階段

グローバルコモンズ

今この時代に大切なことを考えてみる。

これからの教育、これからの学園。

2020年は未曾有の危機を学園一丸となって、乗り超えねばならない年になりました。社会における距離感がドラスティックに変化する時代に、私が教育において、あらためて大事にしたいと感じるものがあります。それは人と人との生きたコミュニケーション。人間の中には科学も解明できていない可能性や創造性があり、その能力を開花させるためには五感を使い、生き物としての感性を研ぎ澄まさねばならないと思うからです。教育の本質は一人ひとりの個性やポテンシャルを発見して伸ばすことです。様々な人間が様々な価値観を持って様々な分野へ進んでいく…教育現場は多様な植物が生き生きと育つ有機的な土壌であらねばならず、そこには一方通行ではない人間同士のきめ細やかな交流が不可欠ではないでしょうか。

このたびのコロナ禍でオンライン授業やデジタル教材といった「教育のICT化」が注目されていますが、私自身は、安易に拙速に世界がそちら側へと移行することに、ためらいを感じざるを得ません。もちろん本学園が時代に逆行するのではなく、膨大な情報量を備えたICTの良い部分は積極的に取り入れていきます。「コロナ禍のような状況下ではICTは不可欠であり、事情があって登校できない学生や生徒達にとってはメリットの多い技術です。本学園でも急遽、様々な取り組みを行いました。しかし先に述べたように「教育のICT化」はまだまだ課題も多く、デジタルとどう対峙すべきかを考え、圧倒的な便利さや合理性を疑い、恐れる気持ちを持ってほしいと強く思います。

2022年には大阪国際滝井高等学校と大阪国際大和田中学校・高等学校の統合が予定されていますが、ここでも本学園の目指す方向は揺らぎません。図らずも今回のコロナ禍で明確になったのは、災害時に問われるのは「いかに自分で考え行動できるか」ということでした。自分の人生に自信を持ち、これからの不透明な時代をしっかり歩いていける人間教育を真摯に行っていきます。

大阪国際学園　理事長　奥田 吾朗

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部

Q 激動の時代、大学教育に求められる変革とは？

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
学長 宮本 郁夫

　本学では緊急事態宣言の解除を受け、6月から対面授業を遠隔授業と組み合わせる形で本格的に開始しました。コロナ禍を契機に、中長期的な「ICT教育」のビジョン策定に取り組み、学生にとってより満足度の高い授業のあり方を模索していきたいと考えています。

　本学では知識だけに頼るのではなく、知情意の円満な発達を促す「全人教育」を建学の精神とし、体験型の教育を重視してきました。私が好きな言葉に、松下幸之助の「人間は皆、磨けば光り輝くダイヤモンドの原石」があります。本学の社会、地域、世界に飛び出し、「身をもって学ぶ」経験は、まさに原石を磨くのに欠かざるべきものです。「withコロナ」の時代となり、生活様式が変わろうとも、これまでと同等の教育機会をつくり出していけるよう、さらなる変革に取り組んでいきたい。そして、学生たちが限りない可能性を切り拓き、「光り輝くダイヤモンド」となって社会に巣立っていってほしいと、心から願っています。

Q グローバルな人材育成に必要な国際教育とは何か？

　コロナ禍による教育の遅れをきっかけに、9月入学に向けた議論が活発化しています。しかし、真に議論すべきは「入学時期」の一点ではなく、小中高から大学まで一貫した「国際教育」の中身であると私は思うのです。本学では留学や海外研修、海外インターンシップなど、多様なプログラムを展開しています。また、海外渡航が制限され、実際に現地に行くことが難しい現在にあっては、日本にいながらにして国際性を身につける「内なる国際化」プログラムの開発も進めています。国際教育のさらなる充実を図るという観点から、本質的な議論を一層深めていきたいと思います。

大阪国際 滝井高等学校

Q コロナ禍による難局を乗り切る力とは？

大阪国際滝井高等学校
校長 松下 寛伸

　今回のコロナ禍は、これまでのやり方が通用しなくなる、まさに世の中の価値観を大きく転換させる出来事だったと思います。この先の指針を見出せず、不安や戸惑いを感じている人も多いことでしょう。そんな時に力を発揮するのが、「今」を生きる若者たちです。敏感に変化を感じとる瑞々しい感性を持つ若者たちこそ、この難局を乗り越え、新しい時代をつくる力となるのです。

　これからの高校教育はこうした若者の感性を磨き、自らの考えをしっかりと持った行動力のある人を育てていかなければいけないと思います。

Q 高校教育に今、求められるものは何か？

　教職員の健康・安全面に配慮しながら、学外のウェブ学習サービスの活用も含めた生徒の学習機会の確保、休校当初から学年ごとの専用アドレスを開設するなど、生徒や各ご家庭との機能的な連絡体制の構築・運用に努めてきました。しかし、事態の推移に合わせた段階的な対応となった側面は否めず、日常からの備えがいかに重要であるかを改めて痛感しました。

　また、予測不能な混沌とした時代を生き抜く「人間力」を磨く教育が今まで以上に求められると思います。今も生徒に、「何事にも好奇心旺盛に関心を持つこと」「チャレンジ精神を持つこと」「コミュニケーションを大事にすること」を心掛けてほしいと伝えています。こうした能動的な学びを通じて、一人ひとりを際立たせるアイデンティティの確立につなげていきたいと考えています。本校の教育方針「凛とした美しい人づくり」は、まさにそうしたことを追求するもので、新時代にも適ったものです。大和田中・高等学校と統合後も、この教育方針は受け継がれていくものと考えています。

大阪国際 大和田中学校
大阪国際 大和田高等学校

Q コロナ禍がもたらす光と影とは?

大阪国際大和田
中学校・高等学校
校長 清水 隆

緊急事態宣言が解除され、6月から授業が再開されましたが、この先も感染予防対策を取りながら活動しなければなりません。「思考力」「判断力」「表現力」の養成には探究型授業が必須ですが、グループで話し合ったり、発表したりという授業形態が難しい状況です。

一方で、学校のICT活用が大きく進んだのは、一筋の光明であると捉えています。オンライン授業のシステムが各校で確立され、また教職員や生徒、各家庭とのコミュニケーションが動画配信やテレビ会議など多様な形で取れるようになりました。これは、長期入院や不登校の生徒に対して有効な手段となり得ます。こうした新たなツールを活用した学校外での授業と、対面授業とをうまく組み合わせることで、新たな学習スタイルの構築にもつなげていければと考えています。

Q "伸び率全国一"へ めざす教育とは何か

大和田中・高等学校では「人間力」「精神力」「創造力」の3つを教育の柱としています。さまざまな分野で活躍されている方々から直接話を聞き、職業体験活動に参加することで感性を磨き、自らの未来を切り拓き、社会に貢献できる人材へと育っていってほしいと思います。

また、新中・高等学校のスタートと同時に国際バカロレア認定校となることを目指しています。「英語を学ぶ」のではなく、「英語で学ぶ」環境となり、よりグローバルな教育の実践が可能になります。大和田と滝井両校に共通する「全人教育」を基礎としながら、一人ひとりを大切にする丁寧な教育を新校でも継続して実施し、"伸び率全国一"を誇る学校にしていきたいですね。

幼保連携型認定こども園
大阪国際 大和田幼稚園

Q 子どもの健康、保護者の安心のための取り組みは?

幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園
園長
矢羽田 ユミ子

「子どもたちの健康を守る」ことを第一に、大人のマスク着用、手指の消毒はもちろん、ガイドラインを作成し、ルール化、見える化を徹底し、日々の検温や手洗いの指導などを行いました。また担任から子どもたち一人ひとりに宛てた手紙を添えて、各学年に合ったぬり絵やシール貼りなどの教材を郵送したり、24本もの動画を作成して配信したり、"電話訪問"と称して子どもや保護者に向けて担任が電話で近況を尋ねたり…。保護者の方から「細やかな対応に感動しました」という言葉をいただき、私たちも励みになりました。

現在もイベント中止が続き、保護者が幼稚園で子どもの様子を見る機会が少なくなっているので、これからも子どもたちの様子がわかる動画配信を続けたい。そして、少しでも保護者の方々の安心につなげていきたいと考えています。また、欠席している子どもへの担任からの連絡や個人懇談会などに、テレビ電話を積極的に活用するなど、離れていても顔が見えるコミュニケーションを心掛けています。

Q 幼児教育について改めて感じたこと、めざす方向性は?

緊急事態宣言発令の中、静まりかえった幼稚園で、私たちは子どもたちがいないと無力だと改めて痛感しました。「子どもたちに何か発信しよう」と先生方に呼びかけると、一人ひとりへのメッセージ、学年だより、動画配信とさまざまなアイデアが…。その勢いに、「皆、同じ気持ちなんだ」と胸が熱くなりました。コロナ禍という難局に直面し、教職員の心が一つになり、より強いチームになったと感じています。

これからもソーシャルディスタンスは保ちながら、心は寄り添いぬくもりが感じられる、子どもたちや保護者にとって、そんな場所であり続けたいと願っています。

REPORT

パラダイムシフト後の社会を生きる

『いつも』と『もしも』とに分けないフェーズフリーによる新しい価値を社会に。

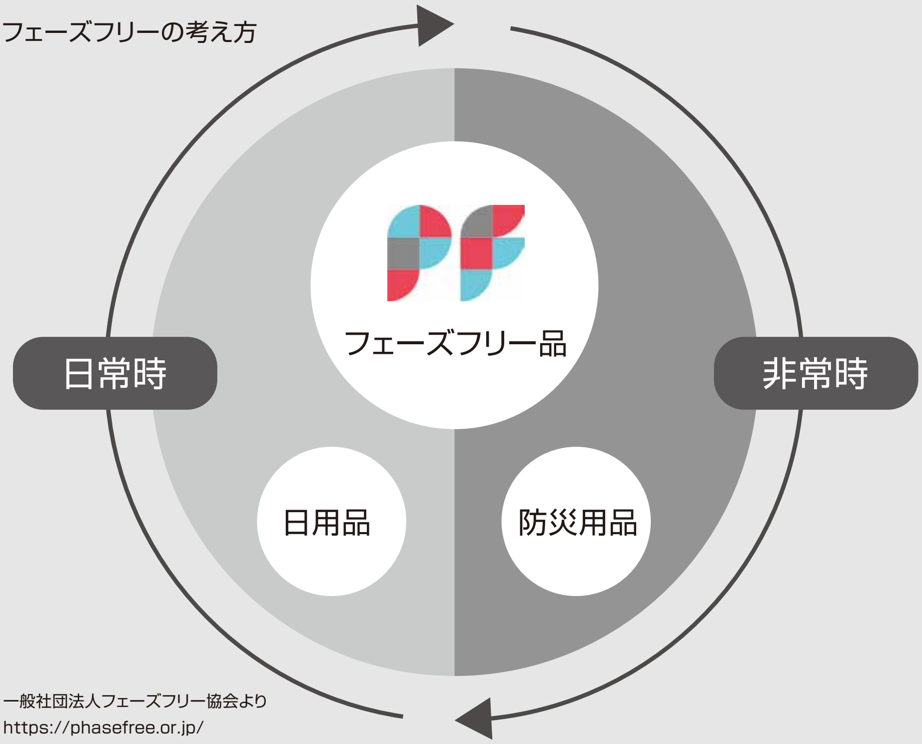
世界がうらやむ美しい自然を持つ国、日本はまた自然災害が発生しやすい災害大国でもあります。「もしもに備える」ことの大切さを認識しながらも、日常生活に追われ、なかなか具体的な対策が進まない…。そんな中で、注目を集めているのが日常時（いつも）と非常時（もしも）を分けない、フェーズフリーという考えです。

「ふだん使うもの」から「どんなときも使えるもの」へ

日用品は主に日常時にのみ使用し、非常時には本来の機能の発揮や生活の質（ＱＯＬ：クオリティ・オブ・ライフ）への提案ができないものが多く、一方、防災用品は、非常時以外は使われることはほとんどありません。そのため、いざという時にうまく使えなかったり、そもそも「非常時にしか役立たない防災用品にコストをかけられない」と備えの行動に移せていなかったり…。防災意識は高まり、防災用品も多く売られているにも関わらず、なかなか実効性のある防災への取り組みが進まないというのが、私たちの社会が抱える問題でした。

そこで提唱されたのがフェーズフリーという考えです。フェーズフリーとは、日常時（いつも）や非常時（もしも）などのフェーズ（社会の状態）に関わらず、適切なＱＯＬを確保しようとする概念です。ふだん身の回りにあり、愛着を持って利用している商品やサービスをそのまま非常時にも利用できれば、安全や安心を叶え、どのような状況下でもＱＯＬを確保し続けることができます。さらには大切な命を守ることにもつながります。

フェーズフリーの考え方



一般社団法人フェーズフリー協会より
https://phasefree.or.jp/

災害対応力が向上するフェーズフリーな社会へ

ふだん使っている食器や文具からファッションやコスメ、さらには乗り物や施設、サービスまで。日常時にも非常時にも価値を発揮してＱＯＬを確保する商品やサービスは、現在、急速に広がりつつあります。フェーズフリー協会によるフェーズフリー認証もまた、こうした動きを後押しし、次々に新たなアイデアや価値が生まれてきています。フェーズフリーのアプローチが世の中に拡大するに従って災害対応力も向上し、社会全体の安全や安心を叶える、フェーズフリーな社会が実現すると考えられています。

フェーズフリー5原則

01 常活性
どのような状況においても利用できること。

02 日常性
日常から使えること。日常の感性に合っていること。

03 直感性
使い方、使用限界、利用限界が分かりやすいこと。

04 触発性
気付き、意識、災害に対するイメージを生むこと。

05 普及性
参加でき、広めたりできること。

防災を意識して生きていれば「もしも」の時を恐れることはない

人間科学部人間健康科学科
西岡 ゆかり 准教授

本学では地域住民の方と一緒に防災を考える「防災フェスタ」を毎年開催しています。このイベントの企画・運営に関わる中で私は防災は人間が生きていく上で非常に重要な知識とスキルではないかと考えるように。そこで防災士の資格を取得し、大学ではプレッパーズ部を設立しました。サバイバルと防災をテーマにしたプレッパーズ部の目的は「もしもの時に自分自身を守る」。災害時、自分が被救助者になったら誰かを助けることなどできないからです。そのために日々の活動を通して自然と親しみ、生きる力や危機管理能力を高めています。

例えば、プチサバイバルキャンプと呼ぶ恒例行事では、竹やシートを利用してシェルターを作ったり、海や山から食料を調達。また極寒の中で眠る体験を通して避難所の過酷さを体験します。最初は心が折れそうになる学生たちですが、慣れてくると体も心もタフになっていきます。トイレがなければ穴を掘って作るなど、身の回りにあるものとアイデアで何とかしようとする。これは非常時でなくても、社会に出た時の問題解決能力につながると私は思います。また私の専門は栄養学ですが、これからは「昆虫」がタンパク源として注目されるでしょう。地球温暖化が問題視される現代、餌として穀物を必要とする牛や豚ではなく昆虫が人類の未来を救うのです。

私たちの生活は基本「何も起こらない」前提の上に立っていますが今回のコロナ禍で激変しました。行政が、会社が、助けてくれないなら自分で自分を守るしかありません。日頃の健康管理や体力づくりはもちろん、いざという時の避難経路を覚えておいたり、昆虫食にも慣れておくなど、心の防災も必要ではないでしょうか。

西岡先生のリュックの中身。火打ち石やマルチツール、携帯のバッテリーなどまるで避難袋のよう。「日本手ぬぐいやビニール袋は応急手当てやカッパに利用できるので常に入れておくといいですよ」

社会問題を直視し、考える。そのきっかけをコロナが与えてくれた

人間科学部心理コミュニケーション学科
上原 健太郎 講師

マイノリティといわれる人々にインタビューして、彼らの置かれた立場からの声を社会に提言するのが私の研究です。今回は社会学の観点からコロナ禍が我々に教えてくれることを考えてみましょう。私は大きく2つあると思います。

まず1つ目は、非常時に不利益を被りやすいのは社会的弱者だということ。派遣社員が真っ先に切られたり、外国人留学生に日本人学生と同様の給付金が支給されなかったり。ステイホームによって家庭内暴力を受けている子ども達の行き場がなくなるのも心配です。私たちは一度、立ち止まって特定の人々にしわ寄せが生じていないかを直視すべきではないでしょうか。

2つ目は、差別や偏見という矢印が誰もに向いてしまう可能性が出てきたこと。例えばたまたま外食した飲食店でクラスターが発生してしまったら…「無責任」「軽率」というレッテルを貼られる可能性は誰にでもあります。これまで差別や偏見とは無縁だと認識していた人たちもまた、他者から厳しい目で眼差されることになる…人はそこで初めて自分がこれまでマジョリティとして他者を眼差してきたことに気づくのです。

これらの問題はコロナが原因で起こったわけではありません。もともと社会に根づいていたさまざまな問題が、コロナを契機に浮き彫りにされただけなのです。派遣社員や留学生への経済的なしわ寄せは以前からありました。このように認識されなかった問題が明らかになったり、自らがしんどい状況を経験することで初めて、しんどい状況下にある他者を想像できるなど「考えるきっかけ」を与えてくれたという側面では、私は今回のコロナ禍に大きな意味があったと考えます。そうしてコロナ後の日本は、少しでもマイノリティに公正な社会になればいいと心から思うのです。

VOICE

コロナを通じて あらためて 感じたこと

コロナウィルスの影響で、学校が休校になり外出も制限されました。そんなステイホームの日々の中で、皆さんは何を感じたのでしょうか。あらためて感謝したいこと、気づいたことというテーマで、学生や生徒、教職員にアンケートしました。

感謝したいこと

一人暮らしをする時に、みんながマスクや消毒液をたくさんくれた

医療関係者の方々には、心からお礼を言いたいと思う

今までの生活がどんなに恵まれていたかを実感。ふつうの生活に感謝する気持ちになりました

旅行が好きなので、今まで当たり前に行けていたことに感謝しました

私が仕事に行った時に子どもを預かってくれた保育園と両親には感謝しかありません

毎日、朝・昼・晩、栄養のあるご飯を作ってくれた母に感謝してます

常々働く事って大変だと感じていたのに、働く事が出来なくなって感謝しました

家族との時間を過ごし色々な話がたくさんできた

気づいたこと

先生がユーチューブしてくれた! 楽しかった

自分も感染するかもしれないという危機感を常に持つということ

何も不自由なく過ごしてた日々は当たり前ではないと思いました。

学校へ行けることが「当たり前」ではないのだと気づきました

授業や学校の大切さ、ありがたさ。どこへもいけないのはつらかった…

誰かと一緒にいたり話したりできる嬉しさにあらためて気づいた

買い物へ行けないから、ネットショッピングが増えたように感じます

『ステイホーム』が意外と苦じゃなかった、家の中でも色々楽しめる→自分自身の新たな発見

学年の先生達と始めたオンラインエクササイズ。運動はもとより、声を出して笑う、その爽やかさと不安解消の効果。人間だけが「笑う動物」。人間ならこわいウィルスと共存できるかも。

日本人はやはり協調性があるんだなと思った

マスクをしているときは、目の表情、声などでのコミュニケーションが一層大切になること

新たにはじめたこと

今までできなかったこと、やってみたかったことに新たに挑戦した方も! あなたは何に挑戦しましたか?

YouTubeに初めて参加…楽しかった~（教員）

家にいることが多かったので、料理やスイーツのレパートリーが増えた（職員）

今まで以上に気を引き締めて、予防をしっかりしていきたい!（学生）

自粛による運動不足解消のため、家のまわりの散歩を始めたこと（職員）

★その他、たくさんのコメントを頂きました。アンケートにご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

OB OG **活躍する、卒業生たち**
MESSAGE

私の「不可能を可能にする」マジックで多くの方に驚きと感動を与えるエンターテイナーを目指し挑戦し続ける。

マジシャン
Satoshi
嵯都志さん

大阪国際大学 人間科学部 心理コミュニケーション学科 2016年卒業

マジックは〝心理学〟を多用する！ 授業で学んだことがとても活かされています。

私が「マジシャンになる」と決めたのは、中学2年生の時。その頃少し自分を見失っていた私は、たまたま見たプロマジシャンのマジックショーに魅了され、「自分がやりたいことはこれだ」と思ったんです。

では、マジシャンになるには何が必要か？そう考えた時、思いついたのは、「英語」「心理学」「コミュニケーション力」の3つ。それらを全て習得できる場として選んだのが、大阪国際大学でした。大学で学んだ心理学はとても役立っています。マジックは、言葉や話し方で相手の視線や思考をコントロールしています。マジックにとって心理学はなくてはならないもので重要になってくるんですよ。

在学中に挑戦した「学生チャレンジ制度」も、自分が変わる大きな転機でした。『マジックを活用して地域活性化』をテーマに、地域の介護施設や学校でマジックショーをしたり、小学生にマジックを教えたり…。積極性が身につき、人前で演じる楽しさを知りました。

感動や熱い思いは人を動かすことを、身をもって体験。

マジックを初めて人前で披露したのは近所の介護施設でした。その頃の忘れられないエピソードは、あるおばあちゃんとの出会い。その方は全身麻痺で本当なら手足が動かないはずなのに、マジックが終わって私が握手を求めると、なんとその方の手が少しだけ動いたんです。その時私は、思いが伝われば不可能を可能にできるんだと感動しました。

この経験は、のちに介護士として働くきっかけにもなりました。大学卒業後、介護施設で働きながらマジックを披露していましたが、その後プロマジシャンとして独立し、現在に至ります。人見知りだった私が、堂々と人前に立てるようになったのは、マジックと出会えたおかげ。マジックが自分を変えてくれたんです。

今後の目標は、マジックの世界チャンピオンになること、マジックの殿堂・マジックキャッスルに出演すること、そして、人に勇気を与える存在になること。私自身があきらめず夢を追い続けて「不可能を可能に」したように、私が様々なことに取り組んでいる姿を見てもらい、「嵯都志を見て勇気が出た」と言ってもらえたら嬉しいです。

プロフィール
本名：中田諭志、1993年生まれ。京都府出身。日本クロースアップマジック連合所属、一般社団法人日本マジック教育普及協会理事。大学卒業後、介護士として2年半勤めたのち、プロマジシャンに。数々のマジックコンテストで受賞。ほか、テレビやラジオ出演・マジック教室講師・マジックショー開催など多方面で活躍中。

学　園

100周年へ向けてスタート
大阪国際学園創立90周年記念式典・祝賀会開催

大阪国際学園の創立90周年記念式典・祝賀会が2019年11月24日、大阪市北区のリーガロイヤルホテル大阪で開催。朝から陽光が降り注ぐ小春日和に恵まれ、午前中の式典では約600人が祝福。来賓のあいさつなどはなく、学園設置校の学生、生徒、園児のパフォーマンスや、学園で学ぶ思いを語るプレゼンテーションを中心に進められ、100周年へ向けての一歩を踏み出しました。

午前11時から始まった式典は、最初に近藤未生大阪府私学課長、西端勝樹守口市長、平沼和彦京都府南山城村長、石井茂大阪私立短期大学協会長、池田博之関西経済同友会代表幹事ら来賓を紹介。

中央が客席に張り出したセンターステージで、大和田中・高校吹奏楽部の12人が、烏帽子姿で雅楽「越天楽(えてんらく)」を演奏。笙(しょう)、篳篥(ひちりき)、龍笛と太鼓が優雅な日本古来の音色を漂わせました。大和田幼稚園児30人が黒のTシャツに緑のショートパンツ、赤、黄、青のリストバンドをして両手で太鼓をたたき、「エンヤサー」「ヨイヤサー」とお祝い気分を盛り上げました。

花村公生大阪国際学園法人本部事務局長が謝礼を述べた後、滝井高校で「礼法」を指導してくださっている小笠原流礼法宗家本部の小笠原敬承斎宗家が乾杯の音頭を執り、宴が始まりました。

ホテルのラウンジ“ホワイエ”では、学園の各設置校を紹介する資料が展示され、多くの人が見学。

大学・短大

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部と沖縄県が就職支援協定を締結
～U・Iターン就職の支援を推進～

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部は、沖縄県と就職支援協定を2020年3月27日に締結しました。本学には約80名（学生の約3%）の沖縄県出身者が在籍しており、彼らにアンケート調査を実施したところ、50%を超える学生が沖縄県に戻って就職したいと考えていることがわかりました。しかし「沖縄県の企業の情報が入りにくい」「就職活動のために多額の費用がかかる」等の理由で、これまでその希望が叶った学生はごくわずかでした。そこで、沖縄県で就職を希望する学生のU・Iターン就職支援を推進していくために、沖縄県と協定を締結しました。そして、本学同窓会沖縄支部の協力を得て、ネットワークの構築にも取り組んでいきます。

大阪国際大学・短期大学部、滝井高校、大和田中学・高校の学生・生徒が、大阪国際学園を選んだ理由や、学園で学んでいること、将来の夢などについてそれぞれの思いを語りました。

■岸川 智耶さん（大阪国際大学）

イギリスへ留学して得た体験をもとに「多様な文化体験をして、個人と個人を結ぶ人材になりたい」とプレゼンテーションを結びました。

■田村 愛香さん（大阪国際大学）

自分にしかできないことを志したいという目標意識、美容系の家庭環境に影響された外面も内面も女性として輝く意識から、働く女性の輝く未来について語りました。

■濱本 茉宏さん、滝本 桃佳さん（大阪国際大学短期大学部）

栄養士や保育士になりたいという夢についてパペットを使って話しました。そして最後にそれぞれの未来の自分へ、メッセージを送りました。

■園部 舞さん、杉森 月音さん（滝井高校）

悩んでいる人を助けることや、人を幸せにすることへの取り組みについて紹介しました。

■浪本 一光さん、米倉 裕亮さん（大和田高校）

海外へ興味を持つようになった体験を英語で話し合い、地球社会の一員として新たな価値観を創り出したいと話しました。

■浅川 陽輝さん、池田 匠冴さん、根矢 樹さん（大和田中学）

3人はともにコンピュータ部で、それぞれの趣味の鉄道、宇宙物理、プログラマーへの関心について話しました。

学生や生徒のプレゼンテーションを受けて、奥田吾朗理事長は、集まった人たちとの「ご縁に感謝する」と話したうえで「これからも人々が必要とする人材を育てていきたい」と話し、学園90年誌で、これから必要とされる人材について「若手の文化、経済界のリーダーに座談会で提案いただいている」と紹介しました。

式典の最後は、滝井高校の軽音楽部21人、ダンス部16人が舞台いっぱいにパフォーマンスを披露。

祝賀会

大阪国際大学・短期大学部、滝井高校、大和田中学・高校の約80人の合同ブラスバンドが、朝倉洋大阪国際大学短期大学部教授（現 名誉教授）の指揮で「春の猟犬」「よさこいソーラン節」を演奏し、舞台では大和田高校ダンス部の生徒たちが曲に合わせて踊りました。

学　園

京阪ホールディングス株式会社と包括連携協定を締結

大阪国際学園と京阪ホールディングス株式会社は、2019年8月22日に包括連携協定を締結しました。この協定の締結により、互いの資源を生かした教育やまちづくりなど、さらに京阪沿線地域の魅力向上・活性化などに取り組んでまいります。

最新情報は各校公式サイト、Facebook、Twitter、インスタグラムで発信中!

大阪国際学園　検索

■ 大阪国際大学
https://www.oiu.ac.jp

■ 大阪国際大学短期大学部
https://www.oiu.ac.jp/oic

■ 大阪国際滝井高等学校
https://www.takii-h.oiu.ed.jp

■ 大阪国際大和田中学校･高等学校
https://www.owada-h.oiu.ed.jp

■ 幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園
https://www.owada-k.oiu.ed.jp

■ 大阪国際学園　https://www.oiei.jp

GLOBAL MIND
もっと世界とつながる グッとくる マガジン
No. 65
Aug.2020

GM四コマ劇場 vol.9

フェーズフリーとは…

作者：うめ

研究室探訪

大阪国際大学短期大学部
ライフデザイン総合学科
海老澤 薫講師 研究室

「昔、母が教えてくれました。筍ごはんに乗せる山椒の葉をポンと叩くと香りが立ったり、黒豆を煮る時に錆びた釘を入れたら色がきれいになるよって。食べ物の不思議な変化に驚いた経験が今につながっている気がします」。そう語るのは短期大学部ライフデザイン総合学科の海老澤薫講師。幼い原体験がきっかけで、大学は農学部農芸化学科へ。大学院では食品の香りとヒトに与える影響について研究した。まさに、山椒の葉を叩くとなぜ良い香りがするのかを科学的に証明する学問だ。

香りを研究する醍醐味、面白さはどこにあるのだろうか？海老澤先生は目をキラキラさせて答える。「例えば、嫌な匂いでもほんの少量混ぜると良い匂いを引き立てることがあるんです。緑茶と烏龍茶と紅茶は同じ茶葉の発酵度が違うものなのですが、作っている工程で香りが大きく変わっていく。そんな変化のダイナミックさがまず面白いですよね。また、フランスの小説家プルーストの作品に、マドレーヌの香りによって幼い頃の記憶が突然よみがえったという有名な一節があります。香りは科学的に解析できるサイエンスでありながら、記憶や情動に訴えるエモーショナルな一面もある…本当に興味が尽きません」。

そんな香りの魅力を本学の学生に伝えるのが、海老澤先生が担当する「食品学実験」。授業の中に様々な香りを実際に嗅いで、自分なりに香りを言葉で表現する課題があるのだが「栄養士コースは、栄養士の資格取得を目的としていますが、香りのボキャブラリーを増やしたり、どのように美味しいのかを伝える力は栄養士にとって必須です」と海老澤先生。近頃はデオドラントにはこだわるけれど暮らしの中の〝匂い〟にはあまり興味を持たない若者が多く、最初は皆どんな香りかをうまく伝えられないのだとか。「食品学実験の授業を通じて香りを表現できるようになると学生は変わりますね。語彙が増えてコミュニケーションが細やかになるし、何より暮らしの中の香りに敏感になる。道を歩いていてキンモクセイの香りに気づいたり、どこからかカレーの匂いがしてきたら嬉しくなりますよね。香りは人生を豊かにしてくれると私は思います」。

海老澤先生自身もオフの日には、香りに癒やされているという。「オフの日はドライブがてら色々な場所へ出かけて、その土地土地の香りを楽しむのが趣味なんです。自然の中で花や植物の香りを嗅いだり、食べるのが大好きなので土地の美味しいものの香りを楽しんだり。何だか怪しいですか？（笑）でも、それが自分自身のインプットにもつながっていて。私の小学校の恩師が〝教うるは学ぶの半ばなり〟とおっしゃっていました。もっと多くの香りに触れて、自分の引き出しを増やしたいんです」。

編集後記

新型コロナウィルスによる緊急事態宣言が発令される中、ネコが大阪弁でコロナウィルスにお説教するユーチューブ動画を観た。

「ちょっとコロナさん、あんた世界中飛び回って人様に迷惑かけて、いったいどういうつもりなん？」と、バナナの皮を被ったネコがお説教を始める。「私見てみぃ。こんな非常事態にバナナ被っとんやで。」と自分の面白さをアピールし「あんたも心入れ替えて（オモロイことを言うウィルスになって）イチから出直しといで…ほんまに」と締められている。「大阪のオバチャン」が言いそうな光景でとても面白かった。こういう時に不謹慎かもしれないが、こんな面白い発想ができるなんて、素晴らしいと思う。コロナウィルスがロックダウンした国境をどんどん越えていき、地球をぐるりと一周したかもしれない。私たちは形として見えないものに怯える一方で、同じように形として見えない信頼や安らぎは、どれだけ感じることができるだろうか？人を笑わせたいという関西人の「お笑い」スピリットももっとグローバルに国境を越えていけば、世界中の人たちの免疫力が上がるのではないかと思う。ほんまに。

2020年8月1日発行／学校法人 大阪国際学園 企画・広報室
〒570-8555 守口市藤田町6-21-57 TEL.06(6902)0787(代) FAX.06(6902)8961 Eメール koho@oiu.jp
https://www.oiei.jp/gm/

●本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承願います。
●本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園企画・広報室までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトでご覧いただけます。
大阪国際学園 検索

GREEN PRINTING JFPI P-D10004
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

学校法人 大阪国際学園
大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
大阪国際滝井高等学校
大阪国際大和田高等学校
大阪国際大和田中学校
幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園